

問1 聖徳太子が活躍した7世紀前後の外交や文化に関する記述として、正しいものはどれか。 (2020年 福岡県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 倭の五王が中国の南朝に使いを送り、朝鮮半島南部における軍事的な指揮権を認めるよう求めた。 | 2. 小野妹子を遣隋使として中国に派遣し、大陸の進んだ制度や仏教などの文化を積極的に取り入れた。 | 3. 元寇による危機を乗り越えるため、執権を中心とした武家政権が沿岸部の防備を強化した。 | 4. 鑑真を日本に招き、唐の進んだ律令制度を完成させるとともに、国風文化を大きく発展させた。 |
|---|--|--|--|

問2 聖徳太子（厩戸皇子）が冠位十二階を定めた背景には、どのような意図があったと考えられますか。当時の政治状況を踏まえた説明を選びなさい。 (2023年 熊本県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. 中国の唐から伝わった最新の法典に基づき、全国に一律の税制と身分制度を導入するため。 | 2. 特定の有力な氏族が政治を動かす仕組みから、天皇を中心とする役人による組織的な政治へ転換するため。 | 3. 家柄の良い豪族をより厚遇することで、天皇に対する忠誠心を高め、国内の反乱を抑えるため。 | 4. 武士の台頭に対抗するため、公家の中で才能ある若手を抜擢し、軍事力を強化するため。 |
|--|---|--|---|

問3 大化の改新で示された「公地公民」の制度が、のちに崩れていく要因となった出来事について説明したものととして、最も適切なものはどれか。 (2021年 和歌山県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 明治新政府が土地の所有権を認め、地価の3%を現金で納めさせる「地租改正」を実施したこと。 | 2. 武士が各地の土地を支配し、年貢の徴収権を確保するために「武家諸法度」を定めて統制を強めたこと。 | 3. 聖徳太子が冠位十二階を定め、氏姓制度にとらわれず個人の能力によって役人を登用し始めたこと。 | 4. 人口の増加にともなう土地不足を解消するため、開墾した土地の永年私有を認める「墾田永年私財法」が出されたこと。 |
|---|--|--|---|

問4 聖徳太子が、十七条の憲法の中で「あつく三宝を敬え」と記すなど、政治に仏教を積極的に取り入れた目的として最も適切な説明を選んでください。 (2018年 岩手県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. 寺院を軍事的な拠点として整備し、対立する豪族を武力によって制圧するため | 2. 大陸から移り住んできた渡来人の勢力を弱め、古来の日本の神々への信仰を独占するため | 3. 仏教の教養を役人の採用基準とするため、中国の「科挙」の制度を完全に模倣するため | 4. 仏教を精神的な支えとすることで、豪族を団結させ、天皇を中心とした国家体制を安定させるため |
|--|---|--|---|

問5 飛鳥時代、聖徳太子（厩戸王）が蘇我氏と協力して政治を行う中で、政治に携わる人々の心得や道徳を示すために制定したきまりを何といいますか。 (2018年 茨城県公立入試 類似)

- | | | | |
|-----------|------------|----------|---------|
| 1. 十七条の憲法 | 2. 五箇条の御誓文 | 3. 冠位十二階 | 4. 大宝律令 |
|-----------|------------|----------|---------|

問6 7世紀中ごろ、中大兄皇子と中臣鎌足が蘇我氏を倒して始めた政治改革（大化の改新）ののち、即位して天智天皇となった彼の事績について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2018年 埼玉県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 壬申の乱で大友皇子を破って即位し、強力な権力を持って飛鳥浄御原宮で新しい政治の仕組みを整えた。 | 2. 天武天皇のあとを継ぎ、律令国家の完成を目指して平城京に都を移し、和同開珎などの貨幣を鑄造させた。 | 3. 唐や新羅による侵攻に備えて、西日本の要所に山城を築き、内陸の大津宮に都を移したほか、日本初の全国的な戸籍を作成した。 | 4. 聖徳太子の摂政として冠位十二階や十七条の憲法を制定し、仏教を厚く保護して法隆寺などの寺院を建立した。 |
|--|---|---|---|

問7 中大兄皇子（天智天皇）らが、有力豪族であった蘇我氏を打倒して開始した「大化の改新」と呼ばれる政治改革の主な目的として、最も適切なものはどれですか。 (2023年 沖縄県公立入試 類似)

- | | | | |
|-----------------------------|-------------------------|-------------------------|---------------------------|
| 1. 天皇を中心とした、新しい国家のしくみをつくること | 2. 仏教の力を借りて、国家の混乱を鎮めること | 3. 武士の力を結集し、地方の反乱を抑えること | 4. 大陸との交易を制限し、独自の文化を育てること |
|-----------------------------|-------------------------|-------------------------|---------------------------|

問8 飛鳥時代、法隆寺の建立など仏教を中心とした国づくりを進めた聖徳太子は、中国大陸を統一した王朝へ使節を派遣しました。この使節の名称と、その代表として派遣された人物の正しい組み合わせを選んでください。 (2022年 和歌山県公立入試 類似)

- | | | | |
|-------------|---------------|---------------|-------------|
| 1. 遣唐使 — 鑑真 | 2. 遣唐使 — 小野妹子 | 3. 遣隋使 — 小野妹子 | 4. 遣隋使 — 鑑真 |
|-------------|---------------|---------------|-------------|

問9 聖徳太子が建立した法隆寺に代表される、日本で最初の本格的な仏教文化について、その名称として正しいものを選びなさい。 (2024年 三重県公立入試 類似)

- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 国風文化 | 2. 東山文化 | 3. 飛鳥文化 | 4. 天平文化 |
|---------|---------|---------|---------|

問10 7世紀、朝鮮半島では唐と新羅が結んで百済や高句麗を滅ぼしました。日本（倭）は百済の復興を支援するために大軍を送りましたが、663年に朝鮮半島西岸の白村江で大敗しました。この「白村江の戦い」において、日本が戦った相手の組み合わせとして正しいものはどれか、選びなさい。 (2025年 茨城県公立入試 類似)

- | | | | |
|--------------|-------------|---------------|--------------|
| 1. 唐・高句麗の連合軍 | 2. 唐・新羅の連合軍 | 3. 新羅・高句麗の連合軍 | 4. 百済・新羅の連合軍 |
|--------------|-------------|---------------|--------------|

問11 7世紀初め、聖徳太子が中国の隋に小野妹子らを派遣した外交政策の目的と、その内容を説明したものととして最も適切なものはどれですか。 (2026年 栃木県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. 中国と対等な立場での外交を目指し、大陸の進んだ制度や文化を取り入れて天皇中心の国づくりに役立てるため。 | 2. 隋の皇帝から日本国王としての称号を得ることで、朝鮮半島での軍事的な優位性を確立するため。 | 3. 蘇我氏が大陸との貿易を独占し、天皇を凌ぐ経済力を背景に権力を掌握するための私的な使節とするため | 4. 日本が中国の属国であることを認め、毎年の朝貢を約束することで日本国内の反乱を抑えるため。 |
|--|---|--|---|

問12 飛鳥時代に聖徳太子が定めた十七条の憲法では、役人が守るべき心得が示されています。この憲法において、人々が争いをやめ協力し合うための「和」の精神とともに、篤く敬うべきものとして挙げられている「三宝（さんぼう）」の具体的な内容はどれですか。 (2026年 奈良県公立入試 類似)

- | | | | |
|-------------|----------|-----------------|-------------------------|
| 1. 儒教・仏教・道教 | 2. 礼・義・信 | 3. 天皇・和・詔（みことり） | 4. 仏（ほとけ）・法（みのり）・僧（ほうし） |
|-------------|----------|-----------------|-------------------------|

問13 聖徳太子が定めた「十七条の憲法」には、役人が守るべき心得が記されています。このように国内で天皇中心の国づくりが進められていた時期に、隋へと使者が派遣された背景や目的について説明したものととして、最も適切なものはどれですか。 (2022年 埼玉県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|---|---------------------------------------|--|
| 1. 大陸の進んだ政治の仕組みや仏教を学び、中央集権的な国家体制を整えるため | 2. 魏の皇帝から「親魏倭王」の称号を授かり、国内の豪族に対する支配力を強めるため | 3. 唐の進んだ律令を模範として、平城京を中心とした新しい都を造営するため | 4. 宋との貿易を盛んにすることで、大陸の貨幣を導入し国内の経済を安定させるため |
|--|---|---------------------------------------|--|

答え合わせ・解説

問1	答え 2 小野妹子を遣隋使として中国に派遣し、大陸の進んだ制度や仏教などの文化を積極的に取り入れた。	聖徳太子は、対等な立場での外交を目指して遣隋使を派遣しました。ここでの学びが、日本初の憲法とされる「十七条の憲法」における仏教の尊重や、儒教的な役人の心得といった内容に反映されています。
問2	答え 2 特定の有力な氏族が政治を動かす仕組みから、天皇を中心とする役人による組織的な政治へ転換するため。	当時の政治は、蘇我氏などの有力な豪族が強大な権力を持っていました。聖徳太子や推古天皇は、こうした特定の家柄に依存する政治から脱却し、天皇が直接任命した「役人」による効率的な統治を目指しました。冠位十二階は、個人の能力を基準に役人を組織に組み込むことで、天皇の権威を高め、大陸の先進的な国家体制に近づけようとする目的がありました。
問3	答え 4 人口の増加にともなう土地不足を解消するため、開墾した土地の永年私有を認める「墾田永年私財法」が出されたこと。	公地公民の原則では、土地はすべて国家のものでしたが、人口の増加によって人々に与える「口分田」が不足しました。そこで政府は、743年に「墾田永年私財法」を制定し、新しく開墾した土地の私有を永代にわたって認めました。これにより貴族や寺社が大規模な私有地（荘園）を持つようになり、公地公民の原則は次第に崩れていきました。
問4	答え 4 仏教を精神的な支えとすることで、豪族を団結させ、天皇を中心とした国家体制を安定させるため	当時の日本は有力な豪族たちが勢力争いをしており、国家としてのまとまりに欠けていました。聖徳太子は、共通の信仰対象として仏教を広めることで、豪族たちの対立を解消し、中央集権的な国家を作り上げるための精神的基盤にしようと考えました。これは、冠位十二階や十七条の憲法といった制度改革とも連動した動きです。
問5	答え 1 十七条の憲法	聖徳太子は、天皇中心の国づくりを進めるため、役人（豪族）たちが守るべき道徳的な規範として「十七条の憲法」を定めました。これは現在の憲法とは異なり、役人に対する訓示としての性格が強いものです。選択肢にある「冠位十二階」は、家柄ではなく才能や功績に応じて役人の位を与える制度であり、混同しないよう注意が必要です。
問6	答え 3 唐や新羅による侵攻に備えて、西日本の要所に山城を築き、内陸の大津宮に都を移したほか、日本初の全国的な戸籍を作成した。	中大兄皇子（天智天皇）は、白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れた後、対外防衛を最優先課題としました。そのため、博多湾を見下ろす大宰府に水城を、また西日本各地に朝鮮式山城を築き、防人を配置しました。あわせて都を近江の大津宮へ移し、670年には日本初の全国的な戸籍である「庚午年籍」を作成して、徴兵や徴税の基盤を整え、中央集権化を進めました。他の選択肢は、聖徳太子、元明天皇、天武天皇の事績に関する記述です。
問7	答え 1 天皇を中心とした、新しい国家のしくみをつくること	蘇我氏のような特定の豪族が政治の実権を握る状況を打破し、土地や人民を国家（天皇）のものとする公地公民の制などを導入しようとした。これは、当時の中国の律令制度を模範とした中央集権的な国家体制の構築を目指したものです。
問8	答え 3 遣隋使 ― 小野妹子	聖徳太子が推古天皇の摂政として政治を行っていた7世紀初め、中国を統一していた王朝は隋です。太子は、大陸の高度な文化や制度を取り入れるため、607年に小野妹子を使節として派遣しました。鑑真は奈良時代に唐から日本へ渡った高僧であり、時代や背景が異なります。
問9	答え 3 飛鳥文化	7世紀前半、聖徳太子が政治を執り行った時代を中心に栄えた文化を飛鳥文化と呼びます。法隆寺の建築や仏像などには、中国の南北朝時代の文化や、さらに西方のインドやギリシャの影響も見えて取ることができます。
問10	答え 2 唐・新羅の連合軍	660年に唐と新羅の連合軍によって百済が滅ぼされた際、日本は百済の遺民から救援を求められました。中大兄皇子（後の天智天皇）はこれに応じ、朝鮮半島へ大軍を派遣しましたが、白村江（現在の韓国の錦江河口付近）において唐・新羅の圧倒的な水軍の前に敗北を喫しました。これにより百済復興の望みは絶たれることとなりました。
問11	答え 1 中国と対等な立場での外交を目指し、大陸の進んだ制度や文化を取り入れて天皇中心の国づくりに役立てるため。	聖徳太子は、当時の進んだ法制度や仏教文化を学ぶことで、日本を天皇を中心とした中央集権国家にする狙いがありました。小野妹子が持参した国書には「日出づるところの天子、書を日没するところの天子に致す…」と記されており、これまでの朝貢外交とは異なる対等な外交を求めたことが特徴です。蘇我馬子は聖徳太子と協力して政治を行っていましたが、遣隋使は私的な使節ではなく国家の事業です。
問12	答え 4 仏（ほとけ）・法（みのり）・僧（ほうし）	十七条の憲法は、豪族たちが争うのをやめ、天皇を中心とした国家体制を整えることを目的として制定されました。第二条に記された「三宝」とは、仏教の根本である「仏（ブツ）」「法（教え）」「僧（集団）」を指します。聖徳太子は、これらを敬うことが正しい政治や道徳の基盤になると考え、仏教の教えを政治に取り入れました。
問13	答え 1 大陸の進んだ政治の仕組みや仏教を学び、中央集権的な国家体制を整えるため	聖徳太子は「官位十二階」や「十七条の憲法」を制定し、豪族が力を持つ社会から天皇を中心とした国家への転換を目指しました。その際、当時中国で高度な政治体制を敷いていた隋に使者を送り、制度や思想（仏教・儒教）を直接取り入れることで、日本の国家としての地位を高めようとした背景があります。